



放課後
子どもひろば

子ども
未来講座



地域 と 子どもと

レガス
子どもクラブ

日本語
教室



国際
理解講座

友好都市
交流

大人に子ども、日本人に外国人。
多様性のまち・新宿に暮らす人々を支え、
交流の輪を広げる地域・子ども部の仕事を
少しだけのぞいてみましょう。



地域・子ども部
子ども支援課 / 地域・友好都市交流課



バックオフィス担当
加藤玲奈さん

幅広い業務を経験できて視野が広がった！これからも子どもが楽しめるイベントをたくさん企画したい。

子ども支援課のお仕事

運営スタッフ
五條多絵さん

お別れの日には子どもたちが泣きながらサインを求めてきて、玄関まで見送ってくれた。愛情をもって接すればかならず届く！

運営スタッフ
塚本尚さん

子ども大人も、関わるすべての人に敬意を忘れず寄り添いたい。1人じゃ成し遂げられなかったことがたくさんあるから…

地域と子どもと

この日々はいつか、子どもたちの一生の思い出になる。

子ども支援課で働く3名の職員にお話を伺いました。「子どもはすごいスピードで成長していくから、毎日が新鮮！」と目を輝かせるのは運営スタッフの五條さん。子どもたちの成長に元気をもらいながら働き、はや5年になりました。同じく運営スタッフの塚本さんも「子どもの成長を実感できる時が、なによりうれしい」とうなずきます。2人とも子どもにかかわる仕事は初めてで、教員免許などの特別な資格も持っていませんでした。なにより必要なのはコミュニケーション能力だといいます。

各ひろばのスタッフはワンチーム。さらに施設をお借りしている学校の先生との連携も欠かせません。多くの子どもが集う以上、難しい局面が生じることもあります。しかし日頃から信頼関係を築き、大人たちみんなでスクラムを組んで乗り越えてきました。

これまで培った事務スキルも、意外と役に立ったとのこと。出欠確認やおたより作り、保護者対応など多岐にわたる管理業務も運営スタッフの重要な仕事。「どんな仕事も子どもたちの笑顔につながるから」と手を抜きません。

バックオフィス業務を担う加藤さんも、この言葉に深くうなずきました。運営スタッフ経験を活かしつつ、現在は緑の下の力持ちとしてオフィスからひろばを支えている彼女。子ども向けの体験講座やお祭りの企画運営も行っており、「企画したイベントで子どもたちが喜ぶ姿を見るのがやりがい」と顔をほころばせました。

子どもの見守りからイベント企画、人事管理まで幅広い業務を経験できる子ども支援課。あなたのどんな経験も活かせるこの職場で、いっしょに子どもたちの未来を創っていきませんか。

放課後子どもひろば
運営スタッフの
とある一日

各小学校の放課後子どもひろばには、常勤職員の運営スタッフ(オレンジのビブス)とパートスタッフ(黄色のビブス)を配置しています。
運営スタッフは、ひろば開始時間前から本部で研修を受講したり、プログラムの企画・調整をしています。
そんな運営スタッフのとある一日のお仕事の流れを覗いてみましょう。

9:30

まずはコズミック
センターに出勤。
スタッフの出欠確認などの
管理業務を行います。



13:30

それぞれの
ひろばへ移動し、
子どもたちを迎える
準備を始めます。



18:15

子どもたちが帰り、
静かになった活動室の
掃除や日誌作成。
学校の先生にも
閉室を報告して
1日は終了です。

10:30

子ども支援課
全員そろっての朝会。
運営スタッフ同士で情報交換したり、
スキルアップのため
研修を受けたり…



14:30

ひろばスタート!
受付や出欠確認を
するなかで、
子どものちょっとした
変化に気づくことも。



地域・友好都市
交流課の
お仕事



多文化共生事業担当
北川亜由美さん
友好都市交流という貴重な
経験を、財団や地域の
みなさんに還元していきたい!



係長
船木大輔さん
支援の「受け手」だけでなく、「担い手」の活躍の場をつくるのも私たちの仕事です。



地域関連事業担当
長谷川貴康さん
地域の人に顔を覚えてもらって、信頼関係を築くのが大切。関わってくれるみなさんに感謝!

多様な国籍の人々との出会いは、一期一会。人と人をつなげるお仕事。

地域密着型の事業を展開する「地域・友好都市交流課」。人口の13% (※令和6年5月現在) を外国の方が占める国際都市・新宿において、地域コミュニティの活性化と多文化共生を目指して奮闘しています。

主に地域関連事業を担当する長谷川さんは新宿区出身。日本各地でさまざまな職種を経験したのち、「ふるさとに貢献したい」とレガス新宿に入職しました。スポーツを通して世代間交流を広げる「コミュニティスポーツ大会」の運営などに携わった彼は、ともに大会を成功させた地域の方々からもらったたくさんの「ありがとう」が忘れられないと語ります。

入職2年目の北川さんは友好都市との交流など、多文化共生事業に注力しています。もともと人と関わるのが好きで、好奇心旺盛。今年は友好都市への青少年派遣に随行して、ドイツ・ベルリン市のミッテ区へ羽ばたく予定です。「交流の場に集まるメンバーは一期一会。出会いの奇跡を楽しんでもらいたい!」と声を弾ませました。

人と人をつなげる媒体として、積極的に地域に出向いていく地域・友好都市交流課。必要なのはフットワークの軽さと思いやりの心だけ! いい意味で「おせっかい」な先輩方が、みなさんをお待ちしています。